



ゆうこみやまの

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソノコ de ソノコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい！  
本田優子と村木美幸の二人が、  
その魅力を交代で執筆する  
ソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

Vol.74

今月のテーマ  
イク・パスイー伝えるころー



村木美幸  
(アイヌ民族  
文化財団理事)

この春、私の勤めて  
いるアイヌ民族博物館  
は、国のアイヌ政策の

「扇の要」とされる「民族共生象徴空間」  
の整備に伴い閉館しました。閉館日には、  
当館の活動を支えてくれた多くの先人た  
ちへの感謝の祈りとして、酒や団子などの  
お供えをしてシンヌラップ(先祖供養)を  
おこないました。

シンヌラップを含めアイヌの酒を伴う祈  
りには、必ずイクパスイと呼ばれる木製の  
籠状の祭具が使われます。私たちの言葉  
は、はぐらへら心を込めても、丁寧であつても、



雄弁でも、大声でも、直接はカムイ(神)に  
届かないとされているので、カムイに言葉  
を届ける役割を担うひとつがイクパスイ  
なんです。イクパスイの先に酒をつけ、  
酒の滴をたらしながら祈ることで、カム  
イに言葉が届き、その上、私たちの言葉が  
足りなかったり、間違えたりしても、それ  
を補ってカムイに伝えてくれるというか  
ら、願ったり叶ったりとか理想的なア  
イテムなんです。言葉を補うことができ  
るということは、祈り手のころを理解し  
ているからこそできることですね。



イラスト/ 莊田悠人




るのに使用するというところで「酒捧箸」、  
酒を飲む際にイクパスイで口元の髭を  
さえたり、上げたりするように見えるこ  
とから「ひげべら」や「ひげあげべら」と  
訳されたりもします。

我が家にも祖父の代から百年以上にわ  
たつて使ってきた、一本のイクパスイがあ  
ります。祖父が彫ったものはわかりませ  
んが、長さ三十センチの表面にはびっしりと彫  
り文様が施され、裏面の先端には三角に彫  
られたバルンペ(舌)と呼ばれる印がつい  
ています。地方によっても違いますが、白  
老ではバルンペの無いイクパスイは喋るこ  
とができない(言葉が伝えられない)と  
して、その有無は重要だといわれています。

祖父から父と母が引き継ぎ、そして私  
たち兄妹に甥や姪も、お盆にお彼岸、命日  
にと、この一本のイクパスイを使って先祖  
供養をします。イクパスイは言葉ととも  
に、私たち家族の思いも伝えてきてくれた  
大切なものなんです。

次回のテーマは  
「トウレフオオウバユリー命の環ー」  
本田優子(札幌大学教授)  
が担当します。



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。  
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。  
■莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。